

平成
27年度

決算のお知らせ

7月12日に理事会・19日に組合会が開催され、平成27年度の決算（健康保険および介護保険）が承認されました。

健康保険

◆ 収入

27年度の保険料収入は、前年と比べて1,965万円減の39億3,626万円となりました。この保険料収入だけでは支出を賄いきれないため、不足分を補うために

決算の基礎数値 (健康保険)

- ◆ 被保険者数 7,575人
- ◆ 平均標準報酬月額 386,179円
- ◆ 平均賞与月数 2.51か月
- ◆ 平均年齢 44.81歳
- ◆ 扶養率 1.00人

準備金・積立金といった過去の貯金を取り崩して「繰入金」とした1億8,400万円などを加えた結果、27年度の収入合計は、41億9,039万円となりました。なお、健保組合の収入はほぼ全額を保険料に頼っており、27年度の収入全体に占める保険料の割合は94%となっています。

◆ 支出

支出合計は41億8,984万円、前年に比べて4,229万円増となりました。

これは保険給付費（通院・入院・薬剤等の医療費や出産一時金・傷病手当金等）が6,046万円、高齢者医

療制度援助のための国への納付金が1,185万円、それぞれ前年度に比べて増加した一方、直営保養所の運営方法の見直しにより保健事業費が前年度に比べて1,965万円減少したことによるものです。なお、支出の内訳は約50.6%が保険給付費、約43.3%が納付金となっています。

◆ 収支残金

収入から支出を差し引いた残額は55万円となりますが、収入不足を補うため、法定準備金や別途積立金などの貯金から1億8,400万円を取り崩して収入に繰り入れていますので、27年度は実質的には年間1億8,400万円の赤字ということになります。

◆ 28年度以降の見通し

春の「健保だより」でもお知らせしたように、27年度まで年間18億円を超えていた高齢者医療制度のため国への納付金支出が、28年度は14億円弱に減少することから、予算段階では10年ぶりの黒字が見込まれていますが、国の定める計算式により課される前期高

齢者納付金は毎年億単位で上下する可能性があり、この黒字はあくまで一時的なものであるといえます。

京成健保では、被保険者のみなさまから集めた保険料の半分近くが高齢者医療制度を支える名目で国へ納められている現状を踏まえ、引き続き全国の健保組合の集まりである健康保険組合連合会とともに、現役世代の高齢者医療制度に対する負担を軽減すべく、国への要望をおこなっております。

介護保険 (40歳～64歳が対象)

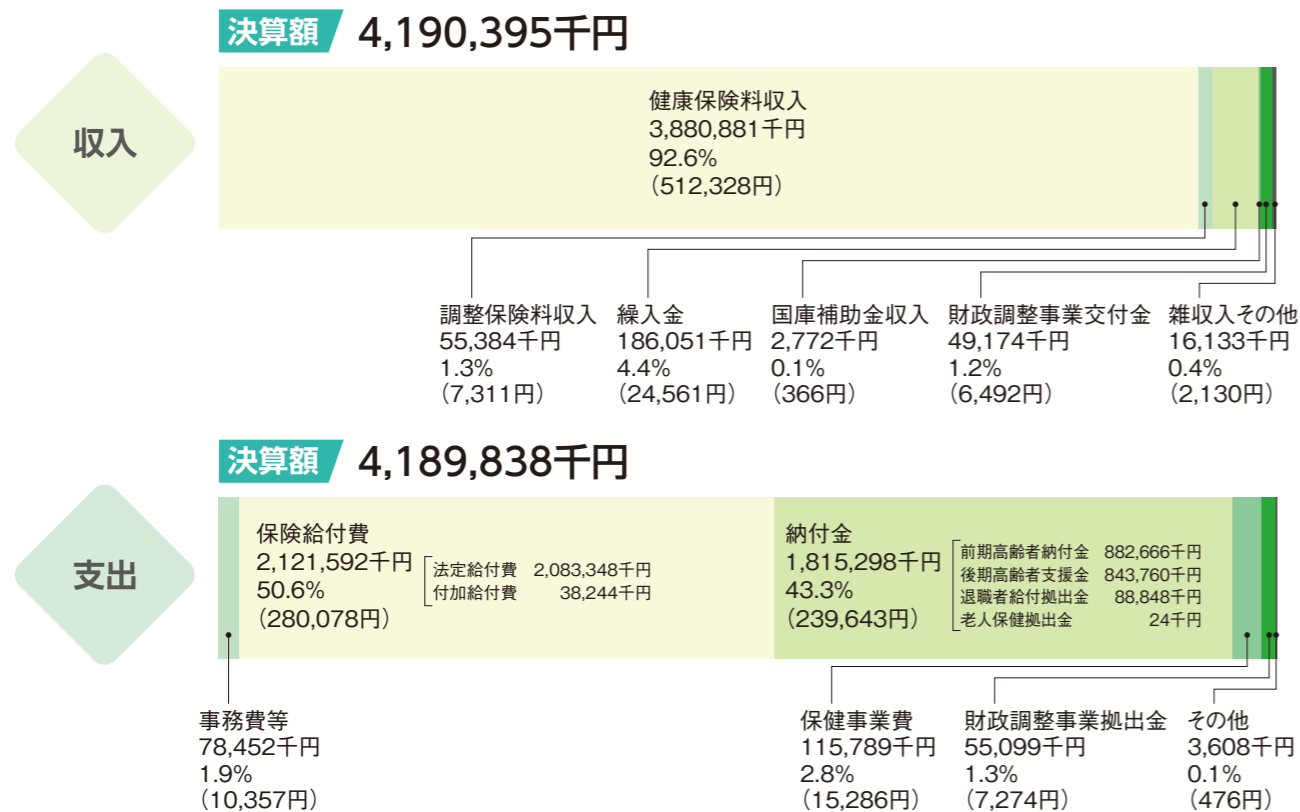
国に納める介護納付金などの支出4億5,013万円に対し、介護保険収入と前年度からの繰越金など収入が4億6,492万円となりました。

決算の基礎数値 (介護保険)

- ◆ 被保険者数 5,073人
- ◆ 平均標準報酬月額 420,665円

健康保険 平成27年度収入支出決算

※ ()内は被保険者1人あたり



介護保険 平成27年度収入支出決算

